

マーケット概況（2021年9月）

9月の債券相場は、前月末にECB高官からテーパリングに前向きな発言が相次いだことを背景に、10年363回債の利回りは前月末比+0.5bpの0.025%で取引を開始した。3日に菅首相が自民党総裁選に不出馬の意向を表明し、新内閣の政策期待による株高が進行したことに加え、3日発表の8月米国雇用統計で非農業部門雇用者数は予想を下回ったものの平均時給が予想を上回る伸びとなり、米国のインフレ懸念が加速したことで債券相場は売り優勢が続いた。14日に日経平均株価が一時3万700円台と1990年8月以来の高値を付けたことも売り材料となったが、中国不動産大手・恒大集団の経営不安を背景に20日に世界的な株安が進むと相場は買いに転じた。しかし、21～22日の米国FOMCで11月のテーパリング開始が強く示唆され、利上げペースも想定より加速する可能性が意識されると相場は大きく反落し、28日に10年363回債の利回りは6月3日以来となる0.070%まで上昇し、同日夜間取引で債券先物12月限は151円26銭まで下落した。月末にかけては、29日に自民党総裁選で岸田氏が選出され国債増発懸念が後退したことや米国の政府閉鎖と債務不履行リスクが意識されたことが相場の下支えとなり、結局10年363回債の利回りは0.065%で取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は投資家需要に支えられ、月前半から半ばの入札は-0.10%～-0.11%台で推移した。3日の3M1020回債入札は、最高落札利回りが-0.1142%と前回債から小幅上昇してスタートした。10日、17日の3M入札では、最高落札利回りがそれぞれ-0.1122%、-0.1094%と上昇傾向であったが、24日の3M1026回債入札では、償還日が年越えとなったことで海外投資家需要を反映し、-0.13%台に大幅低下した。最終的に3M1026回債は-0.143%で取引を終えた。6M・1Yゾーンは、国庫短期証券買入オペの1回あたりオファー額が1,000億円となったものの、投資家の担保需要が根強く、入札は無難に消化した。最終的に6M1025回債は-0.120%、1Y1023回債は-0.118%で取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債スプレッドは国債カーブ+4.0bpと前回（6月債）比同水準、10年地方債は同+6.0bpと前月比同水準で決定した。上期末を控え、国債の代替運用先として旺盛な需要が確認された。5年地方債は0.005%クーポンを維持したことで投資妙味が増し、販売は好調だった。既発債の需給は総じて良好だが、期末を控えた投資家動向により一部スプレッドの拡大が意識された。社債は、ソフトバンクグループの劣後債や各高速道路会社債などが起債され、発行額は2兆940億円と前年同月比2,551億円増加した。グリーンボンドやソーシャルボンド等SDGs債の起債は継続し、また変動利付債では三菱商事ハイブリッド債の変動金利部分にLIBOR代替金利として初めてTONAが採用された。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#363	0.025(1日)	0.025(1日)	0.070(28日)	0.065(30日)
#362	0.010(1日)	0.010(1日)	0.055(28日)	0.050(30日)
#353	-0.090(1日)	-0.090(1日)	-0.035(30日)	-0.040(30日)
#148(5Y)	-0.115(1日)	-0.115(1日)	-0.085(28日)	-0.085(30日)
#177(20Y)	0.405(1日)	0.405(1日)	0.465(28日)	0.445(30日)
#1018-#1025TDB(6M)	-0.122(9日)	-0.123(9日)	-0.111(21日)	-0.120(22日)
#1019-#1026TDB(3M)	-0.120(3日)	-0.155(24日)	-0.113(17日)	-0.143(24日)